

令和4年度横浜市民まち普請事業 第94回部会 会議録

日時	令和4年7月9日(土)10:00～17:45
開催場所	横浜市役所アトリウム
出席者 【敬称略】	部会委員)杉崎、飯尾、植松、加藤、川原、後藤、松村 事務局)横浜市:榊原、萩原、村田、古谷、石田、秋浦 市民セクターよこはま:加世田、韓、金井 横浜市住宅供給公社:岡部、都出、田口、佐藤、土屋、高橋
開催形態	公開 (YouTube でのLIVE 配信含む)
議題	令和4年度横浜市民まち普請事業1次コンテスト 1 開会 2 整備提案の発表 3 審査員による情報収集タイムに向けたポイント整理 4 情報収集タイム 5 審査方法の説明 6 公開議論・質疑 7 公開投票及び結果発表 8 講評
決定事項	2次コンテスト対象提案として以下の提案を選考 【整備提案名】<提案グループ名> 1 【笑楽幸プロジェクト(多世代型交流拠点事業)】 <山本助産院 笑楽幸プロジェクト運営委員会>(金沢区) 2 【まるっとゆるっとCOCOしのガーデンコミュニティ】 <COCOしのはらガーデンコミュニティをつくろう会>(港北区) 3 【世代間交流を目指した持続可能な地域づくり】 <弥生台市有地活用建物における地域貢献施設活用委員会>(泉区) 4 【松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト】 <てんこもりのわ>(神奈川区) 5 【「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ】 <まちまど・洋光台シェアベース実行委員会>(磯子区) 6 【鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る】 <町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト>(港北区)
審査基準	1 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ 2 意欲 ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲 ・整備の実現に向けて、住民参加や提案の精度を高める活動に取り組む意欲 3 公共性 ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度

選考結果	
選考団体(委員講評順)	委員講評
<p>【提案名】 笑楽幸プロジェクト(多世代型交流拠点事業)</p> <p>【提案グループ名】 山本助産院 笑楽幸プロジェクト運営委員会</p> <p>【投票数】 14 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既に地域活動をしている方がバックアップについていることが良い。 ・より幅広く、力強く活動が進んでいくことを期待できる。 ・専門家の集団ということで、安心できると思う。助産院の活動とは異なり、これから目指す活動は多世代に向けた活動になるということなのでより充実したものになると期待している。
<p>【提案名】 まるっとゆるっと COCO しのガーデンコミュニティ</p> <p>【提案グループ名】 COCO しのはらガーデンコミュニティをつくろう会</p> <p>【投票数】 12 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という中で、子どもたちに外遊びが推奨されている。子どもたちは子どもたちの中で成長していくので、庭のゾーニングを検討していき、子どもたちの活動を通してより地域に根差した施設になっていくことを期待している。 ・ソフト面の提案は実績もあり、具体的でよく理解できた。一方、屋外でスタッフを介し、参加される方の横のつながりをどの様にして深めていくのかの検討が足りていないと感じるので、今後、熟度を高めていってほしい。 ・提案名にもあるガーデンコミュニティ(ガーデンを介したコミュニティ)を作っていくことをより検討していくことでいろいろなアイデアが生まれてくると思う。 ・今の施設を利用されている方の意見を今後聞いておくとよいと思う。
<p>【提案名】 世代間交流を目指した持続可能な地域づくり</p> <p>【提案グループ名】 弥生台市有地活用建物における地域貢献施設活用委員会</p> <p>【得票数】 12 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートする対象を絞りニーズを拾っていくことから活動を広げていくという進め方に期待をしている。 ・場のイメージ、スペースの使い方を2次コンテストまでに深めていってほしい。 ・活動の発展が見えづらかったが、代表以外の方の熱量も感じられた。今後の変化も楽しみ。 ・ターゲット、課題意識はよくわかったが、提案内容の具体性が少し足りなかったと思うのでブラッシュアップしていってほしい。

<p>【提案名】 松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト</p> <p>【提案グループ名】 てんこもりのわ</p> <p>【得票数】 14 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最後のコメントの「自分も助けられたから恩返しをしたい」という言葉に心を打たれた。そのような輪を地域で広げていってほしい。 ・新たに参加してきている若い世代の意見も聞きながら次の活動につなげていってほしい。 ・異なる区が隣接している地域で、課題がある部分もあるかと思うが、上手く取り入れて活動を充実させていってほしい。 ・男性の方が受益者になるだけでなく、活動者になれるような展開になることを期待している。
<p>【提案名】 「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ</p> <p>【提案グループ名】 まちまど・洋光台シェアベース実行委員会</p> <p>【得票数】 12 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今の主要なメンバーは応援側だという事が前面に出すぎると、誰が中心となるプレーヤーになるのか分からなくなってしまう。事業を継続していくためのグループのスタンス、活動の中心メンバーが誰になるのか等、2次コンテストまでに具体的にしていってほしい。 ・場所を提供するだけではなく、どの様に使って欲しいのかを示してあげないと活動する側はやりにくい面があるので、上手く成功させてほしいと思っている。 ・メンバーそれぞれの思いが完全に一致しておらず、不確定な要素もあるが、整理できたときの活動にとっても期待できる。
<p>【提案名】 鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る</p> <p>【提案グループ名】 町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト</p> <p>【得票数】 14 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で場所を試行錯誤しながら探していることは評価できる。 ・空き家の勉強会や、社会実験などの試みを予定しているということなので、工夫しながら進めていってほしい。 ・地域のみなさんが顔見知りになり、まちづくりをしながら、人づくりをし、最後までここで暮らしたいと思える地域にしたいという気持ちがよく理解できた。 ・社会全体で最後の最後まで看取っていくことを目指していくことが腑に落ちた。 ・音楽をはじめ様々なアイデアに、シリアスで熱のある思いがある活動であることが理解できた。2次コンテストまでにより具体的なものにしていってほしい。 ・50 年以上住んでいても新参者だという話もあったように、古くから住んでいる方の活動に対するハレーションもあるかもしれない。そこを突破し、最終的には一緒に活動していくためにも、活動の魅力が重要になってくると思う。「音楽」もカギになってくるかと思う。
<p>資料</p> <p>(資料1) 令和4年度ヨコハマ市民まち普請事業1次コンテスト整備提案集</p>	